

## 横田、虫の居所が悪いのはなぜ？

*What's bugging you Yokota?*

June 28, 2023

By Airman 1st Class Jarrett Smith  
374th Airlift Wing Public Affairs

夏になると、日が長くなり、気候も暖かくなり、そして虫も増える。虫が増えれば、蚊を介して広がる日本脳炎などの昆虫媒介感染症のリスクも高まる。

第374医療群の昆虫学専門チームの空兵たちは、横田基地内の各所で虫のサンプルを採集し、それを検査施設に提出して、基地の住民や近隣のコミュニティに影響を及ぼす可能性のある昆虫媒介感染の病原体の有無を調べている。

第374運用医療即応中隊地域衛生課長ミゲル・ブエナフロー軍曹は、「実際に何かが起こる前に、皆が予防策を意識しておくことが大切だ」「予防医学の担当官として、これらの虫が媒介する病気を把握し、住民の健康と安全を守るために情報を伝える責務がある」と述べた。

このプログラムでは、グラビッド(成熟卵保有雌用)トラップ、ライト(灯火)トラップ、BG-センチネル(誘引剤で蚊を誘引し電動ファンで捕集する)トラップなど、さまざまなトラップを用いて蚊を誘引する。グラビッド・トラップは、水、砂糖、イーストを混ぜた誘引液を使用し、夜間に使用するライト・トラップは虫を引き寄せて網で捕集し、BG-センチネル・トラップは香りのついたルアーで蚊をトラップにおびき寄せるものだ。

ブエナフロー軍曹は、「週に約4つのトラップを設置する」「(採集は)5月に開始し、通常は虫が増える9月か10月まで続ける」とも説明した。

主な目的は、メスの蚊を捕えることだ。メスだけが産卵のために血を吸い、蚊媒介感染症を伝染させるためだ。蚊を捕獲した後は、顕微鏡で雄雌を調べる。「オスの蚊は触角に毛が生えていて、メスには生えていないので、はっきりと見分けることができる」と第374医療群伝染病課長ディージェイ・ガンガノー等空兵は言う。

種類ごとに分けられた虫は、日本脳炎、黄熱病、マラリアなどの伝染病の検査のために嘉手納基地に送られる。

「嘉手納基地では虫を識別して検査を行い、虫が何らかの病原を保有しているかどうかを我々に報告してくれる」「もし何か見つければ、感染した虫が見つかった場所を住民たちと第374施設中隊害虫管理部に知らせることができる」とブエナフロー軍曹は説明した。

虫媒介感染症が発生する恐れがある場合、プログラムのメンバーは基地の幹部と連携し、感染の恐れがある場所を特定し、安全が確保できるまで管理を行う。

「このプログラムは、あまり人に知られていない分野のひとつで、特殊だ」「コンセプトはシンプルだが、コミュニティに多くの利益をもたらしている」とブエナフロー軍曹はコメントした。

